

志望大学別出題分析と学習アドバイス

(2024年1月作成)

🎓 明治大学

学部や年度によって異なるが、国語の大問は2～4題出題される（うち現代文が1～2題、残りは古文や漢字問題。漢文は基本的には文学部のみ）。試験時間はほとんどの学部で60分。

現代文の評論は5000字を超える長文が出題されることもあり、設問数も10題前後あるため、時間配分が非常に重要となる。大問が2つある場合は随筆が出題される場合もある。設問では、漢字の読み書き・空欄補充・傍線部の内容説明・内容合致が多いが、日程によっては語句の知識問題・抜き出し・脱落文補充・文学史など、また50字程度の記述も課される。

🎓 青山学院大学

国語は、大問2～3題で、うち現代文が1～2題。学部や年度によっては、これに古文が1題加わる。また、試験時間は60～90分（学部により異なる）。近年は科目を融合した「総合問題」を課す学部もある。

現代文では、2000～5000字以上まで長短幅広い評論が問題文とされ、随筆が出題されることもある。設問は、知識問題から内容合致など読解力や文脈把握の力を問う設問まで幅広い。マーク式が主だが、一部抜き出し問題や漢字が記述式で出題される。

🎓 立教大学

ほとんどの学部で、国語は大問3題で、うち現代文が2題、古文が1題（文学部では現代文・古文・漢文が1題ずつ）。試験時間は75分。

現代文では、2000～4000字程度の評論が2題出題されることが多いが、うち1題が随筆もしくは小説が出題されることもある。

設問は、傍線部の内容説明・理由説明をはじめ、穴埋め・内容合致など読解力重視型。40～50字程度の記述問題も出題される。

🎓 中央大学

学部や年度によって異なるが、国語は大問3題で、うち現代文が1～2題、残り古文・漢文という問題構成が多い。試験時間は60分。

現代文では、2500～4000字程度の評論が出題されることが多い。設問はほぼマーク式で傍線部の内容説明・理由説明、全体の趣旨説明問などが出題される。漢字問題は記述式、また法学部では50字程度の内容説明などの記述問題が出題される。

🎓 法政大学

学部や年度によって異なるが、国語は大問3～4題で、うち現代文は1～2題、残りが古文という問題構成（漢文が含まれる学部もある）が主で、なかには現代文のみ出題する形式もある。試験時間は60分。

現代文では、2500～5000字程度の評論が出題されることが多い。設問では、漢字、傍線部の内容説明・理由説明、内容合致が多い。日程によっては、文学史や20～60字程度の、全体を踏まえた内容説明などの記述問題も出題される。

🎓 学習院大学

国語は大問3～5題と学部によって出題数が異なる。うち現代文は1～2題、残りが漢字・古文（場合によって漢文が含まれる学部もある）。試験時間は60～90分とこれも学部によって異なる。

現代文では、2500～3500字程度の平易な評論が出題されることが多い。設問は基本的にはマーク式で、解きづらい抜き出し問題が記述式で出題される。語彙力問題、文学史などの知識問題も多い。前の年に起こった時事問題を扱った新聞記事が問題文にされることがある。

🎓 立命館大学

年度や学部によって異なるが、国語は大問3題で、うち現代文は1～2題、残りが古文や漢文（漢文は必須ではない）。試験時間は80分。

現代文では、2500～4000字程度の評論と随筆文や小説が1題ずつ出題されることが多い。設問は、記述式の漢字問題や抜き出し問題のみで、その他は主にマーク式で出題される。内容は熟語・諺、空欄補充、傍線部の内容説明、脱文挿入、内容合致、文学史など。問題文も設問の形式も多様。

🎓 関西大学

ほとんどの日程で、国語は現代文1題と古文1題という問題構成。試験時間75分。

現代文では、3000～5000字程度の評論が出題されるが、学部や年度によっては6000字を超える長文が出題されることもあり、選択肢も長いので、時間配分に注意が必要。設問はマーク式が主だが、50字程度の記述問題も出題されるので対策が必要！